

外国語科・外国語活動における目標・指導内容等

※教育課程企画特別部会
論点整理補足資料

平成27年10月22日
言語能力の向上に関する特別チーム
資料10

CEFR

B2

B1

A2

A1

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会(Council of Europe)が発表。

英語教育の抜本的強化のイメージ (秋以降、専門的に検討予定)

※具体的な小学校の授業時数については、**年内~年明けを目的**に教育課程全体の構成とともに検討を進め、**一定の方向性を提示**

新たな英語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基盤を確実に育成



次期学習指導要領「外国語」における国の指標形式の主な目標（イメージ）案（秋以降、専門的に検討予定）

※教育課程企画特別部会
論点整理補足資料

- 国の目標では、小・中・高等学校の学びを円滑に接続させる、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標（指標形式の目標を含む）を示す。
- 学校では、英語を使って何ができるようになるかという観点からCAN-DO形式の学習到達目標を設定し、それに基づく指導と学習評価（筆記テストのみならず、スピーチ、インタビューテスト、エッセー等のパフォーマンス評価、観察等）

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

校種	科目（イメージ）	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
高等学校	4技能総合型 複数の技能を統合させた言語活動が中心 （選択科目：必履修科目を履修させた内容） （必履修科目） 発信能力向上のための言語活動（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等）が中心 （選択科目）	B1	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきりと、馴染みのある発音で話されれば、身近な話題に関する比較的長い会話や身近な事柄に関する説明の概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関する比較的短い記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や知識のある話題について、平易な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題や社会問題について、具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野の話題について、つながりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて書くことができるようにする。
		A2	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきりと、馴染みのある発音で話されれば、身近な話題に関する短い会話や身近な事柄に関する短い説明の概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明を読み、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する事柄や個人的な関心事（趣味、学校など）について、ある程度準備をすれば会話に参加することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄（自分、学校、地域など）について、簡単な語句や文を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。
中学校	中学校での学習内容の活用を通じた定着を含む 英語	A1	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきりと、馴染みのある発音で話されれば、身の回りの事柄（自分、学校、地域など）に関するごく短い会話や説明を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味のある話題に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読み、イラストや写真を参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ごく身近な話題であれば、基本的な表現を用いて簡単な質疑応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、発表内容を準備した上で、簡単な語句を用いて複数の文で意見を述べるができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に関するごく限られた情報（名前、年齢、趣味、好き嫌いなど）を、簡単な語句や文で書くことができるようにする。
		小学校	小学校での学習内容の活用を通じた定着を含む 英語（教科型） 4技能（聞く、話す、読む、書く） 慣れ親しみから「気付き」へ 英語（活動型） 2技能（聞く、話す）	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりとはっきりと、繰り返し話されれば、 短い簡単な指示や挨拶を理解することができるようにする。 身近で具体的な事物を表す単語を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解することができるようにする。 アルファベットを見て識別し、発音できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手のサポートがあれば、個人的な関心事（趣味、学校など）についての質問に答えることができるようにする。 日常の挨拶をしたり、挨拶に回答したりすることができるようにする。

複数の技能を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

外国語教育における求められる資質・能力と学習過程の整理に向けた検討のイメージ（仮案）（作業中）

国の教育目標

小・中・高校を通じて①学校段階間の学びを円滑に接続し、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標と具体的な指標、学習過程、学習評価の観点を提示する方向で改善を図る。

※ 現行学習指導要領の目標は「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題から幅広い話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養うこと」

教科等の目標の改善・イメージ

教科等の目標

英語等の目標

	小学校中学年(活動型)	小学校高学年(教科型)	中学校	高等学校
	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手を意識しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、(他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う
指標		小学校高学年 ○身近で簡単なこと 「~できるようにする」 ・話し手の意向などを理解 ・自分の考えなどを話す ○アルファベットに慣れ親しむ ・英語を読むこと ・英語を書くこと	中学校 ○身近な話題 ・話し手の意向などを理解 「~できるようにする」 ・自分の考えなどを話す ・書き手の意向などを理解 ・自分の考えなどを書く	高等学校 「~できるようにする」 【英語コミュニケーションⅠ】(必修) ・4技能の基礎的な能力(英語話者が理解できる程度の程度) ※中学校での学習の定着を含む。 ・身近な話題、日常的な話題 【英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ】 ・4技能の能力の向上(英語話者が理解できる程度の英語、流暢さ) ・日常的な話題から時事問題、社会問題まで幅広い話題
		小学校高学年 ○話すこと(発表) 「~できるようにする」 ・自分の考えや気持ちなど初歩的な英語で伝える ・初歩的な英語で簡単なスピーチ ○話すこと(やりとり) ・聞いたことに相づちをうつ、感想を述べる	中学校 ○話すこと(発表) 「~できるようにする」 ・自分の考えや気持ちなど英語で伝える ・自分の意見、主張を基に短いスピーチ ○話すこと(やりとり) ・聞いたことについて他者と話し合い、意見を伝え合う	【議論Ⅰ～Ⅲ】 ・聞いたたり読んだりしたことに基づき、発表・議論・交渉する発信能力 ・時事問題、社会問題 高等学校 ○話すこと(発表) 「~できるようにする」 ・適切に伝える ・スピーチ ・プレゼンテーション ○話すこと(やりとり) ・伝え合う、適切に反応する ・ディベート ・ディスカッション

英語の学習過程

	小学校中学年(活動型)	小学校高学年(教科型)	中学校	高等学校
	○ 課題設定 ・場面、語いや表現との出会い ・外国語によるコミュニケーションの体験 ○ 活動 ・外国語への慣れ親しみ ・言葉への気付き ・外国語を用いたコミュニケーション ○ふり返り [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 あいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す	○ 課題設定 ・場面、語いや表現との出会い ・外国語によるコミュニケーションの体験 ○ 活動 ・アルファベットなどの文字や単語等の認識 ・語順の違いなど文構造への気付き ・日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き ○まとめとふり返り [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 あいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す	○ 課題設定 身近で日常的に使われる表現を理解し、単純な情報交換ができる ○ 活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※具体的な場面にあった適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面で使ったり別の意味で活用したりするなどスパイラルに何度も学ぶ ※ ペアワーク・グループワーク ○ まとめとふり返り [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面(あいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話での応答) ・生徒の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事 [言語の働きの例] ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す	○ 課題設定 [話題] 身近な話題→日常的な話題→時事問題や社会問題などの幅広い話題 [場面] 個人的な場面→社会的な場面 [受信内容を活用した発信] リスニング、リーディングによる受信⇒スピーキング、ライティングによる発信 ○ 言語活動 [内容] ・目的に応じたりスニング、リーディング ・目的に応じた当該言語活動が必要となる語彙、表現、文法事項 ・聞いたたり読んだりして得た情報や考えなどを活用して行う発表、議論、交渉など(情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝える言語活動) ※小学校、中学校で学習した語や表現、文法事項等を別のコンテキストで活用できるように、スパイラルに学習する。 [形態] ・ペア・ワーク、グループ・ワーク中心 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど ○ まとめとふり返り ・各自が得た情報や考えなどの共有 ・聞いたたり読んだりして得た情報や考えなどを整理するためのライティング ・話した内容を再度整理・補強するとともに、表現力を向上させるためのライティング ・技能ごとに弱みを把握し、それを克服するために必要な学習方法の理解

今後の英語教育の改善・充実方策について 報告（概要）

～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言～

英語教育の在り方に関する有識者会議 平成26年

- 文部科学省の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（平成25年12月）の具体化のため、平成26年2月～9月に9回開催（そのほか計5回の小委員会を開催）。
- 改革のうち、教育課程や教員養成等については、中央教育審議会等における全体的な議論の中で更に検討を要する。

改革を要する背景

- グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要である。アジアの中でトップクラスの英語力を目指すべき。今後の英語教育改革においては、その基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成は重要な課題。
- 我が国の英語教育は、現行の学習指導要領を受けた改善も見られるが、特にコミュニケーション能力の育成について更なる改善を要する課題も多い。東京オリンピック・パラリンピックを迎える2020（平成32）年を見据え、小・中・高を通じた新たな英語教育改革を順次実施できるよう検討を進める。並行して、これに向けた準備期間の取組や、先取りした改革を進める。

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善

- 学習指導要領では、小・中・高を通して①各学校段階の学びを円滑に接続させる、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標（4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む）を示す（資料参照）（具体的な学習到達目標は各学校が設定）。
- 高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。
あわせて、生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来から設定されている英語力の目標（学習指導要領に沿って設定される目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度から2級程度以上）を達成した中・高生の割合50%）だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2～準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。
 - ・小学校： 中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに、ことばへの関心を高める。高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。学習の系統性を持たせるため教科として行うことが求められる。小学校の英語教育に係る授業時数や位置づけなどは、今後、教育課程の全体の議論の中で更に専門的に検討。
 - ・中学校： 身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する。
 - ・高等学校： 幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を豊富に体験し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を高める。

改革 2. 学校における指導と評価の改善

- 英語学習では、失敗を恐れず、積極的に英語を使おうとする態度を育成することが重要。中学校・高等学校では、主体的に「話す」「書く」などを通じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を展開することが重要。
また、生徒が英語に触れる機会を充実し、中学校の学びを高等学校へ円滑につなげる観点から、中学校においても、生徒の理解の程度に応じて、授業は英語で行うことを基本とする。
- 各学校は、学習指導要領を踏まえながら、4技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達目標を設定（例：CAN-DO形式）し、指導・評価方法を改善。併せて主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視し、観点別学習状況の評価において、例えば、「英語を用いて～ができる」とする観点を「英語を用いて～しようとしている」とした評価を行うことによって、生徒自らが主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法等を検証・活用。
- 小学校高学年で教科化する場合、適切な評価方法については先進的取組を検証し、引き続き検討。

改革 3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善

- 生徒の4技能の英語力・学習状況の調査・分析を行い、その結果を、教員の指導改善や生徒の英語力の向上に生かす。
- 入学者選抜における英語力の測定は、4技能のコミュニケーション能力が適切に評価されることが必要。
- 各大学等のアドミッション・ポリシーとの整合性を図ることを前提に、入学者選抜に、4技能を測定する資格・検定試験の更なる活用を促進。
そのため、学校、テスト理論等の専門家、資格・検定試験の関係団体等からなる協議会を設置し、
 - ・適切な資格・検定試験の情報提供、
 - ・指針づくり（学習指導要領との関係、評価の妥当性、換算方法、受験料・場所、適正/公正な実施体制等）、
 - ・試験間の検証、英語問題の調査・分析・情報提供等の取組を早急に進めることが必要。
- 「達成度テスト」の具体的な検討を行う際には、連絡協議会の取組を参考に英語の資格・検定試験の活用の在り方も含め検討。

改革 4. 教科書・教材の充実

- 小学校高学年で教科化する場合、学習効果の高いICT活用も含め必要な教材等を開発・検証・活用。
- 主たる教材である教科書を通じて、説明・発表・討論等の言語活動により、思考力・判断力・表現力等が一層育成されるよう、次期学習指導要領改訂においてそのような趣旨を徹底するとともに、教科用図書検定基準の見直しに取り組む。
- 国において音声や映像を含めた「デジタル教科書・教材」の導入に向けた検討を行う。
- ICT予算に係る地方財政措置を積極的に活用し、学校の英語授業におけるICT環境を整備。

改革 5. 学校における指導体制の充実

- 地域の大学・外部専門機関との連携による研修等の実施や、地域の指導的立場にある教員が英語教育担当指導主事や外部専門家等とチームを組んで指導に当たることなどにより、地域全体の指導体制を強化。
地域の中心となる英語教育推進リーダー等の養成、定数措置などの支援が必要。
- 各学校では、校長のリーダーシップの下で、英語教育の学校全体の取組方針を明確にし、中核教員等を中心とした指導体制の強化に取り組むことが重要。
- 小学校の学びを中学校へ円滑に接続させるため、小中連携の効果が期待される相互乗り入れ授業、カリキュラムづくり、指導計画作成などを行う合同研修など実質的な連携促進が必要。
- 小学校の中学年では、主に学級担任が外国語指導助手（ALT）等とのチーム・ティーチングも活用しながら指導し、高学年では、学級担任が英語の指導力に関する専門性を高めて指導する、併せて専科指導を行う教員を活用することにより、専門性を一層重視した指導体制を構築。
小学校教員が自信を持って専科指導に当たることが可能となるよう、「免許法認定講習」開設支援等による中学校英語免許状取得を促進。
英語指導に当たる外部人材、中・高等学校英語担当教員等の活用を促進。
- 2019（平成31）年度までに、すべての小学校でALTを確保するとともに、生徒が会話、発表、討論等で実際に英語を活用する観点から中・高等学校におけるALTの活用を促進。
- 大学の教員養成におけるカリキュラムの開発・改善が必要。
例えば、
 - ・小学校における英語指導に必要な基本的な英語音声学、英語指導法、チーム・ティーチングを含む模擬授業、教材研究、小・中連携に対応した演習や事例研究等の充実、
 - ・中・高等学校において授業で英語によるコミュニケーション活動を行うために必要な英語音声学、第2言語習得理論等を含めた英語学、4技能を総合的に指導するコミュニケーションの科目の充実等を、英語力・指導力を充実する観点から改善することが必要。今後、教員養成の全体の議論の中で検討。同時に、小学校の専科指導や中・高等学校の言語活動の高度化に対応した現職教員の研修を確実に実施。

小・中・高を通じた目標及び内容の主なイメージ（英語教育の在り方に関する有識者会議報告書別添資料 平成26年9月）

		小学校		中学校	高等学校		
		中学年	高学年				
教科等の目標	改善例	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。 ＜ポイント＞ ・言語や文化についての体験的理解 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・コミュニケーション能力の素地	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。 ＜ポイント＞ ・身近で簡単なこと ・コミュニケーション能力の基礎	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。 ＜ポイント＞ ・身近な話題 ・理解、表現、情報交換できるコミュニケーション能力	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。 ＜ポイント＞ ・言語や文化についての理解 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・幅広い話題 ・情報や考えなどを的確に理解し適切に伝えるコミュニケーション能力		
	現行	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。		
1 目標	改善例 英語等の目標	4 技能に係る目標（例）（話す）＜イメージ案＞					
		「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら初歩的な英語で伝えることができるようにする。 【SP2】与えられたテーマについて初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたことに相づちをうったり、感想を言ったりすることができるようにする。	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら英語で伝えることができるようにする。 【SP2】自分の意見や主張を基に、与えられたテーマについて短いスピーチをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたり読んだりしたことなどについてほかの人と話し合い、理解したことを確認したり、意見を伝え合ったりすることができるようにする。	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 ○＜必履修科目＞ 日常的な話題や自分の関心のある分野について、英語話者が理解できる程度の英語を用いて、 【SP1】情報や考えなどを適切に伝えることができるようにする。 【SP2】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、まとまった内容のスピーチをすることができるようにする。 【SP3】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、まとまった内容のプレゼンテーションをすることができるようにする。 ○＜選択科目＞ 抽象的な内容を含む幅広い話題について、英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に、 【SP4】情報や考えなどを適切に発表することができるようにする。 【SP5】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、論理的な構成のスピーチをすることができるようにする。 【SP6】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら論理的な構成のプレゼンテーションをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○＜必履修科目＞ 日常的な話題や自分の関心のある分野について、英語話者が理解できる程度の英語を用いて、 【SI1】情報や考えなどを伝え合ったり相手の発話に適切に反応することができるようにする。 【SI2】簡単なディベートをすることができるようにする。 【SI3】簡単なディスカッションをすることができるようにする。 ○＜選択科目＞ 抽象的な内容を含む幅広い話題について、英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に、 【SI4】情報や考えなどを伝え合ったり相手の発話に適切に反応することができるようにする。 【SI5】ディベートをすることができるようにする。 【SI6】問題解決型のディスカッションをすることができるようにする。
		＜ポイント＞ ・相手意識 ・初歩的な英語		＜ポイント＞ ・「発表」：小学校からの接続 ・「やりとり」：話し合いと伝え合い		＜ポイント＞ ・伝える ⇒ スピーチをする ⇒ プレゼンテーションをする ・伝え合う／相手の発話に反応する ⇒ ディベートをする ⇒ ディスカッションをする	
				(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。		＜「コミュニケーション英語Ⅰ」(必履修科目)＞ 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。	

小・中・高を通じた目標及び内容の主なイメージ（英語教育の在り方に関する有識者会議報告書別添資料 平成26年9月）

		小学校		中学校		高等学校	
		中学年	高学年	中学校		高等学校	
2 内容	改善例	<p>○現行の小学校高学年の学習内容を児童の発達段階に応じて実施</p> <p>1.外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、指導する。</p> <p>2.日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、指導する。</p> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化についての体験的理解 	<p>○言語活動</p> <p>英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を2学年間を通して行わせる。</p> <p>「聞く」「話す」については、</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な英語の音声に慣れ、身の回りの語いや場面の中での表現を聞き取り、状況から判断して適切に応じること。自分の考えや気持ちなどを英語やジェスチャーを使って、聞き手がわかるように話すこと。 「読む」「書く」については、 文字や符号を識別し、正しく読むこと 単語を識別すること 文字を識別し、正しく書くこと 単語を識別し、正しく書き写すこと <p>○言語活動の取扱い</p> <p>(1)2学年を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <p>(2)児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <p>第5学年における言語活動</p> <p>第6学年における言語活動</p> <p>○言語材料の取扱い</p> <p>・外国語活動で扱った、表現等を繰り返し扱う。その際、外国語活動と異なる場面で活用するなど、スパイラルに何度も扱うことに留意する。</p> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に依拠して聞くこと・話すこと 文字の認識、単語の識別 	<p>○言語活動</p> <p>「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について言及</p> <p>→英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。</p> <p>○言語活動の取扱い</p> <p>「内容に踏み込んだ言語活動を重視」することに言及</p> <p>○言語材料の取扱い</p> <p>→<u>小学校で扱った語、表現等は、中学校においても繰り返し扱う。その際、小学校とは異なる場面で使ったり、別の意味で活用したりするなど、スパイラルに何度も扱い直すことに留意する。</u></p> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 4技能のバランスよい育成 内容に踏み込んだ言語活動 	<p>第2款の第1から第4に示すリスニング、スピーキング、リーディング及びライティングの各技能に係る目標を達成するため、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践できるように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う。</p> <p>(必履修科目の例)</p> <p>○言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを整理したり、概要や要点をとらえたりする。 説明や物語を読んで、情報や考えなどを整理したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 日常的な話題や自分の関心のある分野について、まとまった内容のスピーチやプレゼンテーションをしたり、簡単なディベートやディスカッションをしたりする。 聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて簡潔に書く。 言語活動を効果的に行うための配慮事項 リズムやイントネーションなどの英語の音声的特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたたり話したりすること。 要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、聞き手が理解しやすいように話すこと。 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 <p>○内容の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校におけるコミュニケーション能力の基礎及び中学校におけるコミュニケーション能力を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を体験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返し指導し定着を図るよう配慮するものとする。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 4技能のバランスよい育成 言語活動の高度化(発表、討論、交渉など) 		
	現行		<p>1.外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。</p> <p>(1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。</p> <p>(2) 積極的に外国語を聞いたたり、話したりすること。</p> <p>(3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。</p> <p>2.日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。</p> <p>(1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに関心すること。</p> <p>(2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。</p> <p>(3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。</p>	<p>(1) 言語活動</p> <p>(2) 言語活動の取扱い</p> <p>3学年を通じた指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの考えや気持ちを伝え合う活動の設定 具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考える 取り上げる言語の使用場面や言語の働き 生徒の学習段階を考慮して第1学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 <p>外国語活動を通じて積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえる</p> <p>(3) 言語材料</p> <p>(4) 言語材料の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 発音と綴りを関連づけた指導 文法と言語活動を効果的に関連付けた指導 日本語との違いに留意した指導 	<p>○「コミュニケーション英語基礎」、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」</p> <p>(1) 言語活動</p> <p>(2) 言語活動を効果的に行うための配慮事項</p> <p>○英語に関する各科目に共通する内容等</p> <p>1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせて活用する。</p> <p>[言語の使用場面の例]、[言語の働きの例]</p> <p>2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。</p> <p>ア 語、連語及び慣用表現 イ 文構造のうち、運用度の高いもの ウ 文法事項</p> <p>3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 現代の標準的な英語 イ 文法は言語活動と効果的に関連付けて指導</p> <p>ウ 語句や文構造、文法事項は実際に活用できるよう指導</p> <p>4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。</p>		
	改善例	<p>○高学年における外国語との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。</p> <p>○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を取り扱うことを原則 学年ごとの適切な目標設定 言語や文化に関する内容とコミュニケーションに関する内容と関連づけた指導 指導内容や活動の設定 学級担任等の役割、指導体制の充実 教材等 道徳の時間などとの関連 <p>2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの場面設定 アルファベットなどの文字や単語の取扱い 言葉によらないコミュニケーションの手段 国語についての理解 コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き <p>(2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3学年における活動 第4学年における活動 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年外国語と関連した指導計画の作成 	<p>○中学校における外国語との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。</p> <p>○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を取り扱うことを原則 学年ごとの適切な目標設定 言語や文化に関する内容とコミュニケーションに関する内容と関連づけた指導 指導内容や活動の設定 等 <p>2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの場面設定 言葉によらないコミュニケーションの手段 国語や我が国の文化についての理解 コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き <p>(2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5学年における活動 第6学年における活動 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語活動を踏まえた指導計画の作成 	<p>○小学校における外国語活動、外国語及び高等学校における外国語との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。</p> <p>○教材については、日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)に言及</p> <p>○授業は英語で行うことを基本とする。</p> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語活動、外国語を踏まえた指導計画の作成 高等学校外国語と関連した指導計画の作成 英語で行うことを基本とする授業 生徒の英語による言語活動が中心の授業 	<p>○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1の目標に示す「4技能に係る目標」に基づき、各学校において学習到達目標を設定すること。 各学校においては、生徒や地域の実態に応じて、3学年間全体を見通した上で、学年ごとの学習到達目標を外国語を用いて何ができるようになるかという観点から定めること。 小学校における外国語活動と外国語及び中学校における外国語との関連に十分留意して、指導計画を適切に作成すること。 各科目の指導計画の作成に当たっては、各科目の目標や内容等に応じた指導や評価の方法について、学校で共通の体制を構築すること。 学校における学習が、生涯にわたって、自ら外国語を学び、実際にコミュニケーションの場で使おうとする動機付けに結びつくものとなるようにすること。 <p>○言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造等の取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、言語の使用場面や言語の働きに即して実際に活用できるようにすること。 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるとともに、生徒の英語による言語活動が授業の中心となるよう十分配慮するものとする。 ○内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 辞書の活用の指導などを通じ、自ら積極的に外国語を学び、コミュニケーションの場で使おうとする態度を育てるようにすること。 ペア・ワークやグループ・ワークなどを積極的に取り入れ、生徒が実際に外国語を用いてコミュニケーションを行う場面を十分確保すること。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 4技能に係る目標」に基づく各学校における学習到達目標の設定 外国語を用いて何ができるようになるかという観点からの学習到達目標の設定(3年間全体、各学年) 小学校における外国語活動と外国語及び中学校における外国語と関連した指導計画の作成 指導及び評価における共通指導体制の構築 生涯にわたって外国語を学んでいく動機付けとしての学校における学習 言語の使用場面や言語の働きに即した言語材料の活用 英語で行うことを基本とする授業 生徒の英語による言語活動が中心の授業 		
現行		<p>1.指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を取り扱うことを原則 適切な目標設定 言語や文化に関する内容の指導とコミュニケーションに関する内容との関連 指導内容や活動の設定 等 <p>2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <p>ア コミュニケーションの場面設定</p> <p>イ アルファベットなどの文字や単語の取扱い</p> <p>ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段</p> <p>エ 国語や我が国の文化</p> <p>オ コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き</p> <p>(2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。</p> <p>ア 第5学年における活動</p> <p>イ 外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。</p> <p>イ 第6学年における活動</p> <p>第5学年の学習を基礎として、友達とのかかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。</p>	<p>1.小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。</p> <p>2.外国語科においては、英語を履修させることを原則とする。</p> <p>3.第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p>	<p>1.小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。</p> <p>2.外国語科においては、英語を履修させることを原則とする。</p> <p>3.第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p>	<p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とする。</p> <p>(2)「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、「コミュニケーション英語Ⅰ」は「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に履修させることを原則とする。</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 教材については、外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。</p> <p>ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>エ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。</p> <p>(2) 音声指導の補助として、発音表を用いて指導することができること。</p> <p>(3) 辞書の活用の指導などを通じ、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。</p> <p>(4) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れ、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p>		

最近の英語教育改革に関する経緯

【文部科学省の動向】

教育再生実行会議

第3次提言

「これからの大学教育等の在り方について」
(H25.5.28)

○ 国は、**小学校の英語学習の抜本的拡充(実施学年の早期化、指導時間増、教科化、専任教員配置等)や中学校における英語による英語授業の実施、初等中等教育を通じた系統的な英語教育について、学習指導要領の改訂も視野に入れ、諸外国の英語教育の事例も参考にしながら検討**する。国、地方公共団体は、少人数での英語指導体制の整備、JETプログラムの拡充等によるネイティブ・スピーカーの配置拡大、イングリッシュキャンプなどの英語に触れる機会の充実を図る。

第2期教育振興基本計画(H25～29)

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策
～四つの基本的方向性に基づく、8の成果目標と30の
基本施策～ 2. 未来への飛躍を実現する人材の養成
(H25. 6. 14閣議決定)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)
※グローバル人材の養成(略)

【成果目標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%

基本施策16

外国語教育、双方向の留学生交流・国際交流、大学等の国際化など、グローバル人材育成に向けた取組の強化
【主な取組】

16-1 英語をはじめとする外国語教育の強化

新学習指導要領の着実な実施を促進するため、外国語教育の教材整備、英語教育に関する優れた取組を行う拠点校の形成、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる、戦略的な英語教育改善の取組の支援を行う。また、英語教育ポータルサイトや映像教材による情報提供を行い、生徒の英語学習へのモチベーション向上や英語を使う機会の拡充を目指す。大学入試においても、高等学校段階で育成される英語力を適切に評価するため、TOEFL等外部検定試験の一層の活用を目指す。

また、**小学校における英語教育実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、検討を開始し、逐次必要な見直しを行う。**教員の指導力・英語力の向上を図るため、採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促すとともに、海外派遣を含めた教員研修等を実施する。

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
(H25.12.13文科省発表)

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

○小学校 小中学年:活動型

・週1～2コマ程度・コミュニケーション能力の素地を養う・学級担任を中心に指導

○小学校 高学年:教科型

・週3コマ程度(「モジュール授業」も活用)
・初歩的な英語の運用能力を養う
・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

○中学校

・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
・授業を英語で行うことを基本とする

○高等学校

・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる。英語話者となる程度流暢にやりとりができる能力を養う
・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う

※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

英語教育の在り方に関する有識者会議 (H26.2～26.9)

今後の英語教育の改善・充実方策について 報告
～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～(H26.9末)

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善

○ 学習指導要領では、小・中・高を通して
1.各学校教育の学びを円滑に接続させる、
2.「英語を使って何ができるようにするか」という観点から一貫した教育目標(4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む)を示す(具体的な学習到達目標は各学校が設定)。

小学校:

・中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに、ことばへの関心を高める。
・高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。学習の系統性を持たせるため教科として行うことが求められる。
・小学校の英語教育に係る授業時数や位置づけなどは、**今後、教育課程の全体の議論の中で更に専門的に検討。**

中学校:

・身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する。

高等学校:

・幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を豊富に体験し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を高める。

中央教育審議会

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」H26文科初第852号(H26.11.20)

○ グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で躊躇せず意見を述べ他者と交流していくために必要な力や、我が国の伝統文化に関する深い理解、他文化への理解等をどのように育んでいくべきか。

特に、国際共通語である英語の能力について、文部科学省が設置した「**英語教育の在り方に関する有識者会議**」の報告書においてまとめられた提言も踏まえて、例えば以下のような点についてどのように考えるべきか。

・小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を、「英語を使って何ができるようにするか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと

・小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと

・中学校では、授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高めること

・高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること

【背景】

「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」<抄>(平成25年6月14日)

○(略)また、「鉄は熱いうちに打て」のことわざどおり、初等中等教育段階からの英語教育を強化し、高等教育等における留学機会を抜本的に拡充し、世界と戦える人材を育てる。

④世界と戦える人材を育てる

(i)初等中等教育段階からの英語教育を強化する。このため、**小学校における英語教育実施学年の早期化、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について検討**する。

⑦グローバル化等に対応する人材力の強化

・小学校における英語教育小学校5、6年生における外国語活動の成果を今年度中に検証するとともに、**実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、今年度から検討を開始し、逐次必要な見直しを行う。**

「日本再興戦略」改訂2014-未来への挑戦-<抄>(平成26年6月24日)

○(略)また、初等中等教育段階からの英語教育の強化のため、小学校英語の早期化等を行う拠点への支援や教員の英語指導力向上のための取組を開始した。

○**小学校における英語教育実施学年の早期化等に向けた学習指導要領の改訂を2016年度に行うこと**を目指し、**指導体制の強化、外部人材の活用促進など、初等中等教育段階における英語教育の在り方について検討を行い、本年秋を目途に取りまとめる。**学校現場等における外国人活用の抜本強化を図り、実践的な英語教育を実現させる。あわせて、在外教育施設における質の高い教育の実現及び海外から帰国した子供の受入れ環境の整備を進める。